

広島AIプロセス(HAIP)報告枠組みとは？

日本発のグローバルAIガバナンス最前線

2025年7月28日(月)
14:00-15:30



14:00-14:05 開会挨拶：今川拓郎（総務省）

14:05-14:15 HAIPの概要説明（動画）：Karine Perset（OECD）

14:15-14:35 HAIP報告枠組みの全体概要と参加企業へのインタビュー結果報告
江間有沙（東京大学東京カレッジ）

14:35-15:15 パネルディスカッション

パネリスト：

小島治樹（日本マイクロソフト）

永沼美保（NEC）

大野健太（Preferred Networks）

飯田陽一（総務省）

工藤郁子（大阪大学）

実積寿也（中央大学）

司会：江間有沙（東京大学東京カレッジ）

15:15-15:25 Q&A

15:25-15:30 閉会挨拶：住友貴広（内閣府）

HAIP報告枠組みの全体概要と 参加企業へのインタビュー結果報告

東京大学東京カレッジ
江間有沙

広島AIプロセスの道のり

年月	イベント
2023年 4 月	G7デジタル・技術閣僚会合（高崎・群馬）
2023年 5 月	G7広島サミット
2023年10月	マルチステークホルダーハイレベル会合（京都）
2023年10月	G7首脳声明
2023年12月	閣僚級会合→G7首脳声明
2024年5月	広島AIプロセスフレンズグループ
2025年2月	広島AIプロセス報告枠組み発表
2025年4月	広島AIプロセス報告枠組み19社が公開

- 2023年の**生成AI**の急速な発展
- **高度なAIシステム**の指針と行動規範
- 初の**国際的政策枠組み**がG7で承認
- 開発途上国・民間**パートナー**
- **安全・安心・信頼できるAI**を利用できる

◀ AI開発者向け国際指針および国際行動規範公表

◀ 「広島AIプロセス包括的政策枠組み」と「推進作業計画」に合意

◀ 広島AIプロセスの精神に賛同する国々の自発的な枠組み（2025年5月で56カ国）

G7 reporting framework – Hiroshima AI Process (HAIP) international code of conduct for organizations developing advanced AI systems

As part of the G7 Hiroshima AI Process, the G7 launched a voluntary reporting framework to encourage transparency and accountability among organizations developing advanced AI systems. The results will facilitate transparency and comparability of risk mitigation measures and contribute to identifying and disseminating good practices.

The OECD, informed by leading AI developers, supported the G7 in developing this reporting framework as a monitoring mechanism to facilitate the application of the [Hiroshima AI Process International Code of Conduct for Organizations Developing Advanced AI Systems](#).

Submit your Report

Share your organization's practices through our user-friendly interface. You can save your work in progress and return to complete it later.

Browse Reports

Browse submitted reports to learn about organizations' approaches and practices for safe and trustworthy AI development.

ORGANIZATION	PUBLICATION DATE ↓	COUNTRY/TERRITORY
MGOIT	Apr 24, 2025, 08:00 PM GMT+9	RO
Rakuten Group, Inc.	Apr 23, 2025, 08:02 AM GMT+9	JP
Fujitsu	Apr 23, 2025, 07:17 AM GMT+9	JP
ai21	Apr 23, 2025, 01:02 AM GMT+9	IL
Fayston Preparatory School	Apr 23, 2025, 01:02 AM GMT+9	KR
TELUS	Apr 23, 2025, 01:02 AM GMT+9	CA
Google	Apr 23, 2025, 01:01 AM GMT+9	US
OpenAI	Apr 23, 2025, 01:01 AM GMT+9	US
Anthropic	Apr 23, 2025, 01:01 AM GMT+9	US
Salesforce	Apr 23, 2025, 01:01 AM GMT+9	US
KYP.ai GmbH	Apr 23, 2025, 01:01 AM GMT+9	DE
Microsoft	Apr 23, 2025, 01:01 AM GMT+9	US
NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE CORPORATION	Apr 23, 2025, 01:00 AM GMT+9	JP
NEC Corporation	Apr 23, 2025, 01:00 AM GMT+9	JP
Preferred Networks	Apr 23, 2025, 01:00 AM GMT+9	JP
Data Privacy and AI	Apr 23, 2025, 01:00 AM GMT+9	DE
West Lake research & education service, a division of Palo Alto Research	Apr 23, 2025, 01:00 AM GMT+9	US
SoftBank Corp.	Apr 23, 2025, 12:59 AM GMT+9	JP
KDDI Corporation	Apr 23, 2025, 12:59 AM GMT+9	JP

なぜいまHAIP報告枠組みが必要なのか

- 特徴

- 一覧性：OECDのウェブサイトを集約されている
- 比較可能性：同じ質問項目に対する答えが書かれている
- ボランタリー：開示内容の柔軟性、負荷が少ない

- 期待

- 透明性：情報開示をしていく環境を推奨する
- 相互運用性：OECDのAI原則、EUのAI法、国際標準との関係性

インタビュー調査＋意見・情報交換

- ・インタビューを受けてくださった企業
 - ・ KDDI Corporation, SoftBank Corp., Preferred Networks, NEC Corporation, NTT, Microsoft, Salesforce, OpenAI, Google, Fujitsu, Rakuten Group

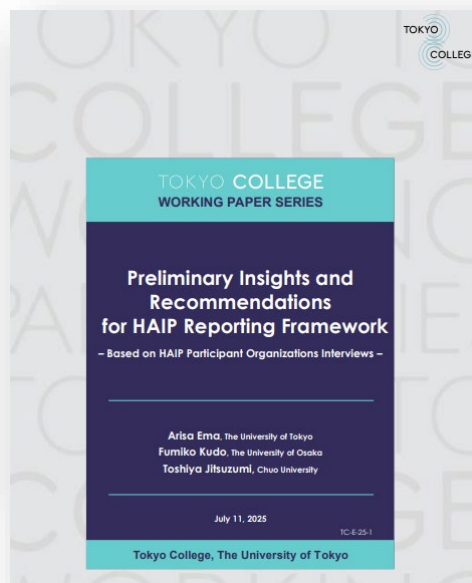


▲2025.6.3@東大主催
HAIP報告企業と関連組織で
インタビュー結果のとりま
とめを議論



▲2025.6.11@
OECDblog
インタビュー結
果の簡易報告書

<https://oecd.ai/en/work/the-haip-reporting-framework-feedback-on-a-quiet-revolution-in-ai-transparency>



▲2025.6.11@東京大学
ワーキングペー
パー
インタビュー結果の詳細報
告書

https://www.tc-u-tokyo.ac.jp/blog/wp-content/themes/tokyocollege/publication/WP_TC-E-25-1_Ema.pdf



◀2025.7.18@
日本AISI主催
安全性のための
技術やガバナン
スがHAIPにど
う貢献できるか
を議論



◀2025.7.24@
カナダG7主催
中小企業
(SMEs)が
HAIPに参加す
るための課題と
可能性

参加企業・関連組織でネットワーク
を作り、HAIP最新情報を意見交換中

2025.6.10@
OECD主催▶
OECD-GPAI関
係イベントでイ
ンタビュー結果
を披露



提出企業へのインタビューより① 誰に対して報告を書いているか？

観客タイプ	説明	典型的な動機
国際機関	G7 / OECDパートナー	- AIガバナンスにおける存在感 - 国際的な整合性
政策関係者	政府機関、規制当局	- 信頼構築 - 各国規制枠組みへの影響
ビジネス&テクニカル・パートナー	B2B顧客、外部開発者、企業パートナー	- 契約の明確化 - リスクの説明責任
一般	株主、市民、就活生	- 信頼構築 - ブランド戦略
社内チーム	従業員	- AIガバナンスに関する社内/関係者の連携と認識を高める

提出企業へのインタビューより②

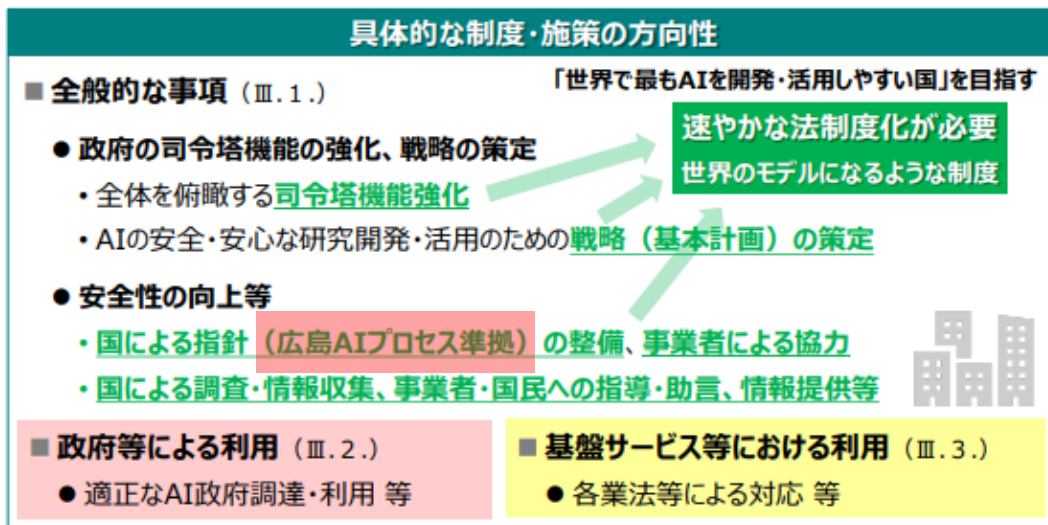
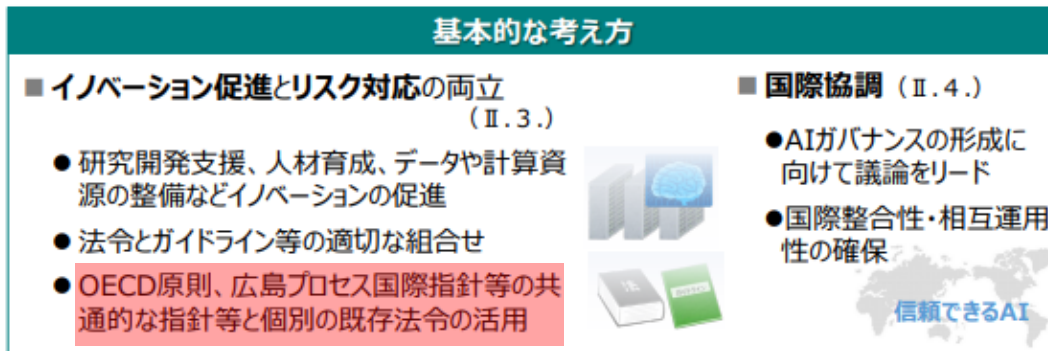
フレームワークの課題

- フレームワークに曖昧さがある：
 - **スコープ**：質問は、特定のAIシステムを指しているのか、会社の方針を指しているのか
 - **役割**：開発者として答えるべきか、プロバイダーとして答えるべきか、あるいはその両方として答えるべきか
 - B2Bの場合、クライアントへの情報開示は特にデリケートで困難な場合がある
 - **対象者**：報告書は政府向けか、顧客向けか、一般向けか
- より明確なテンプレートや例が必要
 - しかし、柔軟性と明確さの間には緊張関係がある
- 意図しない使用に対する懸念：
 - 採点やランキングに使用されるリスク
 - HAIPを任意かつ非評価的なものに保ってほしい

日本のAI法

- 2024年8月：内閣府「AI制度研究会」で議論開始
- 2025年2月4日：「AI制度研究会」で「中間とりまとめ」公表
- 2025年2月28日：「人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律」閣議決定→国会提出
- 2025年6月4日：「AI新法」が公布（同日施行日）
 - AIの技術開発推進とリスク対応
 - AI戦略本部を内閣に設置
 - AI基本計画の制定
 - 罰則規定なし、ただし国による情報収集や調査協力に協力の必要

AI新法と広島AIプロセスへの関係性



適正性の確保

国は、人工知能関連技術の研究開発及び活用の適正な実施を図るため、**国際的な規範の趣旨に則した指針の整備**その他の必要な施策を講ずるものとする（第13条関係）

調査研究等

国は、国内外の人工知能関連技術の研究開発及び活用の動向に関する**情報の収集**、不正な目的又は不適切な方法による人工知能関連技術の研究開発又は活用に伴って国民の権利利益の侵害が生じた事案の分析及びそれに基づく対策の検討その他の人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に資する調査及び研究を行い、その結果に基づいて、研究開発機関、活用事業者その他の者に対する指導、助言、情報の提供その他の必要な措置を講ずるものとする（第16条関係）

HAIPの意義と波及効果

- 実質的に、今後日本のAI開示の標準となる可能性
- 透明性を通じたAIガバナンスの実装
- 社内のAIガバナンス体制整備の契機
- パネルディスカッションへの問い
 - 論点1：「なぜ参加したのか」「HAIPの課題は」
 - 論点2：「透明性に必要なことは」「日本のAI法とどう向き合うか」

AIの国際ルール形成における日本の貢献

